



概要版



いのち支える

# 富岡市自殺対策行動計画

～誰も自殺に追い込まれることのない富岡市を目指して～

全国では毎年2万人を超える人が自らの命を絶っています。一人ひとりのかけがえのない大切な命を守るために、富岡市では「いのち支える富岡市自殺対策行動計画」を策定しました。

## 富岡市の自殺の状況

富岡市の年間自殺者数は、増減を繰り返しながら緩やかに減少をしており、平成14(2002)年と比較をすると15人の減少が見られました。

男女別で見ると、男性の自殺率<sup>※</sup>は女性に比べ4倍以上、高くなっています。

年代別では、男性は30・50・

60歳代、女性では80歳以上が高い状況にあります。

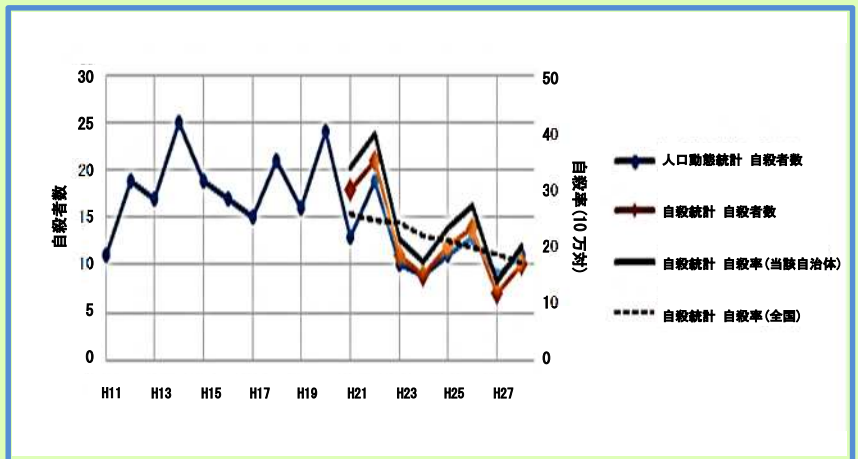
このことから、**男性では若年代から幅広い年代に渡って、自殺対策が求められます。**

**女性では、特に高齢世代での対策が課題になります。**

### ※自殺率とは…

人口10万人当たりの年間自殺者数を表します。

## 自殺者数と自殺率<sup>※</sup>の推移 (富岡市と全国の比較)



## 性・年代別自殺率<sup>※</sup> (富岡市と全国の比較)



資料:自殺総合対策推進センター「地域自殺実態」プロファイルデータ

## 計画の位置づけ

本計画は、自殺対策基本法第 13 条 2 項の規定により、富岡市の実情を勘案して定める自殺対策についての計画です。中長期的な視点をもって継続的に実施していくため、「自殺対策基本法」、「自殺総合対策大綱」を踏まえ、「第 2 次富岡市総合計画」や関連性の高い計画である富岡市健康増進計画「健康とみおか 21(第 3 次)」との整合性を図ります。

## 計画の期間・目標値

【計画期間】平成 31 (2019) 年度から 34 (2022) 年度までの 4 年間

※平成 35(2023)年度からは、健康増進計画「健康とみおか 21」に統合します。

【目標値】平成 27 (2015) 年の自殺死亡率を平成 34 (2022) 年までに概ね 20%減少

※平成 27(2015)年自殺死亡率 13.8(自殺者数 7 人)⇒平成 34(2022)年自殺死亡率 11.0 (自殺死亡者数 5 人)以下へ

## 計画の推進体制等

庁内における各課との連携・ネットワークの強化に加えて、行政・地域が一体となり「生きる支援関連施策」を中心とした取り組みの推進を図ります。

国（厚生労働省）は、全国的に実施されることが望ましい自殺対策事業を「基本施策」として 5 項目をあげました。富岡市も、下記 5 項目を「基本施策」として推進します。

### 【富岡市の基本施策】

#### 1 地域におけるネットワークの強化

自殺に追い込まれようとしている人が安心して生きられるために、様々な分野の施策・組織と密接に連携を図ります。

#### 2 自殺対策を支える人材の育成

様々な悩みや生活上の困難を抱える人に対しては、早期の「気づき」が重要です。誰もが早期の「気づき」に対応できるよう、研修の機会を確保します。

#### 3 住民への啓発と周知

自殺に関する誤った認識や偏見を払拭し、「命と暮らしの危機に陥った場合には、誰かに援助を求めることが適切である」という理解を促進していきます。自殺を考えている人の存在に気づき、思いに寄り添い、声をかけ話を聞き、必要に応じて専門機関につなぎ見守っていくという役割についての意識が共有されるよう、啓発事業を展開します。

#### 4 生きることの促進要因への支援

自殺対策は、「生きることへの促進要因」を増やす取り組みが重要です。居場所づくり、自殺未遂者への支援、遺された人への支援に関する対策を推進します。

#### 5 児童生徒の S O S の出し方に関する教育

「困難やストレスに直面した児童・生徒が信頼できる大人に助けの声をあげられる」ことを目標として、学校の教育活動を中心に、関係機関と連携しながら S O S の出し方に関する教育を進めます。

国（厚生労働省）は、平成 29(2017)年 7 月 25 日に閣議決定された新たな自殺対策大綱で示された重要な施策を勘案し、**地域において優先的な課題となり得る施策については「重点施策」として推進することとしました。**

## 【富岡市における対策が優先されるべき対象群の把握】

富岡市の主な自殺の特徴（特別集計（自殺日・住居地、H24～28 合計））

資料：自殺総合対策推進センター「地域自殺実態」プロフィール

上位 5 区分	自殺者数 5 年計（人）	割合 （%）	自殺率* （10 万対）	背景にある主な自殺の危機経路**
1 位: 女性 60 歳以上無職同居	10	19.2	30.4	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
2 位: 男性 40～59 歳有職同居	8	15.4	29.9	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺
3 位: 男性 60 歳以上無職同居	6	11.5	29.7	失業（退職）→生活苦+介護の悩み（疲れ）+身体疾患→自殺
4 位: 男性 20～39 歳有職同居	5	9.6	28.7	職場の人間関係/仕事の悩み(ブラック企業)→パワハラ+過労→うつ状態→自殺
5 位: 男性 40～59 歳無職同居	4	7.7	183.0	失業→生活苦→借金+家族間の不和→うつ状態→自殺

順位は自殺者数の多さに基づき、自殺者数が同数の場合は自殺率の高い順とした。

\*自殺率の母数（人口）は平成 27 年国勢調査を基に自殺総合対策推進センターにて推計

自殺に追い込まれるという危機は「誰にでも起こり得る危機」ですが、「**平均して 4 項目の要因（問題）が連鎖する中で自殺が起きている**」とする調査があります。

富岡市の事例で自殺に追い込まれる背景として、

- ①「身体疾患→病苦→うつ状態→自殺」
- ②「仕事上の配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺」
- ③「失業（退職）→生活苦+介護の悩み（疲れ）+身体疾患→自殺」

等があげられます。

富岡市では、下記 3 項目を自殺対策の「重点施策」とします。

## 【富岡市の重点施策】

- 1 高齢者対策
- 2 生活困窮者対策
- 3 勤務・経営



次ページで、具体的な施策を紹介しま



## 1 高齢者対策

高齢者は閉じこもりや抑うつ状態になりやすく、孤立や孤独に陥りやすい状況にあります。高齢者の自殺の原因・動機として多い「健康問題」への対応は、早期に身近な人が適切な対応をすることで、うつ状態の防止につながります。また、高齢者を孤立させないために、地域での生きがいや社会参加への支援が必要になります。

<具体的な施策>

### (1) 包括的な支援のための連携推進

健康、医療、介護、生活など様々な関係機関との連携を推進し、包括的な支援体制を整備します。

例) 地域ケア会議、高齢者等安心ネットワーク連絡協議会の活動推進 など

### (2) 地域における要介護者に対する支援

介護者や家族が継続して介護が行えるよう、また心理的負担が軽減されるよう支援を提供します。

例) 在宅高齢者短期入所事業、介護保険事業、介護と医療総合相談 など

### (3) 高齢者の健康不安に対する支援

うつ病を含む健康問題について、関係機関と連携をしながら相談体制を強化します。

例) 介護と医療総合相談、とみおか健康ダイヤル24、各種相談、各種健・検診 など

### (4) 社会参加の強化と孤独・孤立の予防

孤独や孤立を予防し、高齢者の心身の機能強化につながるよう、支援体制を強化します。

例) ふれあいの居場所事業、いきいき健康教室、高齢者のための筋力トレーニング教室 など

### (5) 生活不安を抱える高齢者に対する生活支援

相談機関の紹介や各種サービス等の情報提供により、安心して生活できるよう対策を進めます。

例) 配食サービス事業、独居高齢者の見守り体制の充実、家族介護支援の充実 など

## 2 生活困窮者対策

生活困窮者はその背景として様々な問題を複合的に抱えていることが多く、経済的困窮に加えて社会から孤立しやすい傾向があります。

これらの人が自殺に至らないように、生活困窮者自立支援担当部門と自殺対策担当部門の連携が求められていることから、富岡市でも関係部局と連携をしながら支援を行います。

<具体的な施策>

### (1) 自殺対策と生活困窮者自立支援事業との連動

相談支援事業と各事業を連動させて対応します。

例) 生活福祉資金貸付事業、緊急食料等提供事業、就労自立促進事業 など

## 3 勤務・経営

富岡市では働き盛りの男性における自殺が課題となっています。特に40～50歳代の男性は、心理的・社会的にも負担を抱えることが多く、心の健康のバランスを崩しやすい状況です。

こうした人々が安心して生きられるよう、精神保健的な視点のみではなく、労働環境など社会・経済的な視点を含む取り組みが重要です。

<具体的な施策>

### (1) 各種相談・支援事業の実施

例) こころの相談、無料法律相談、就労支援事業 など



問い合わせ ○福祉課 ☎ 62-1511 (内線 1137)

富岡市役所 ○健康推進課 (保健センター) ☎ 64-1901